



岡山大学記者クラブ

文部科学記者会

科学記者会

御中

令和 2 年 9 月 30 日

## 歯科医院から歯・口の健康に関する情報を得た大学生は 口腔保健行動を改善することを発見

### ◆発表のポイント

- ・歯・口の健康に関する情報は TV やインターネットなどで簡単に知ることができるようになっています。
- ・本研究により、インターネットではなく、歯科医院から歯・口の健康に関する知識を得た学生は、デンタルフロスを使う、定期的に歯科健診を受けるといった口腔保健行動を改善しやすいことが分かりました。
- ・専門家から歯科知識を得ることは、良好な口腔保健行動を通じて、口の中における健康状態の悪化を防ぐこともわかりました。

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野の福原大樹助教・森田学教授、同大保健管理センターの岩崎良章教授、同大口腔形態学分野の福原瑤子助教の共同研究グループは、岡山大学の大学生を対象に、在学中に得た歯・口の健康に関する知識、その情報源と口腔保健行動との関連を調査しました。

歯科医院で歯・口の健康に関する知識を得た学生は、デンタルフロスを使うようになり、定期的に歯科健診を受けるようになりました。つまり、口腔保健行動が改善されることがわかりました。さらに、口腔保健行動が改善した学生は、口の中における健康状態の悪化を防いでいることもわかりました。

本研究は、7月23日に学術誌「PLOS ONE」に掲載されました。

### ◆研究者からのひとこと

これまでの先行研究から、多くの大学生は、入学時と比較して卒業時には歯茎の状態が悪化することがわかっています。これには、生活スタイルの変化などさまざまな要因が考えられます。今回の発見を通じ、大学生における口腔保健行動の改善だけでなく、卒業後も良好な口腔内状態の維持に貢献できればと思っています。



福原助教



## PRESS RELEASE

### ■発表内容

#### <現状>

フッ素入り歯磨き粉の使用、歯磨き、デンタルフロスの使用、および定期的歯科健診などの適切な口腔保健行動はむし歯や歯周病を防ぎます。私たちの先行研究では、歯・口の健康に関する正しい知識を持つ大学生は良好な口腔保健行動を行うことがわかっています。歯・口の健康に関する情報源としては、歯科医院で歯科医師や歯科衛生士からの保健指導のみではありません。テレビ、インターネットなどから得られる情報は巷にあふれています。

これまで我々は、横断研究において、岡山大学の新生生に対して、歯・口の健康に関する知識、情報源と口腔保健行動との関連を調査し、良好な歯・口の健康に関する知識を持つことと、情報源が歯科医院であることが、より良い口腔保健行動と関連があることを明らかにしました。しかし、大学生活を通じて得た歯・口の健康に関する知識やその情報源が学生の口腔保健行動へどのような影響を与えるのかは不明でした。



#### <研究成果の内容>

研究グループは、2014年度（ベースライン）の岡山大学新生生に対して歯科健診およびアンケート調査を行いました。その後、卒業年度にあたる2017年度（フォローアップ）において、同大学生を対象に、再度歯科健診およびアンケート調査を行いました。ベースラインにおいて、1日の歯磨き回数が2回未満のもの（50人）、デンタルフロスを使用していない者（364人）および定期的歯科健診を受診していない者（343人）、すなわち「保健行動が良好とはいえない学生」を分析対象者とし、3年後のフォローアップ時において、それぞれの口腔保健行動の変化を評価しました。

その結果、デンタルフロスを使用するようになった者と定期的歯科健診を受診するようになった者、すなわち「良好な保健行動をとるようになった学生」は情報源が歯科医院であることと有意な関連が認められました。また、インターネットやTVが情報源の場合は、定期的歯科健診を受診するようになったことと関連はありませんでした。インターネットやTVで健康情報に接しても、それが行動変容を促すまでにはならないのかもしれませんが、さらに、口腔保健行動が改善した学生は、歯肉からの出血や歯の清掃状態の増悪を防ぐこと、つまり、口の中における健康状態の悪化を防ぐこともわかりました。



歯・口の健康に関する知識の情報源が「歯科医院」 → 口腔保健行動が改善される。

### <社会的な意義>

口腔保健行動は口の健康状態に影響を与えます。歯科医院から適切な歯・口の健康に関する知識を得ることが効果的に口腔内を良好に保つことへ貢献すると考えられます。

### ■論文情報

論文名：Relationship between oral hygiene knowledge, source of oral hygiene knowledge and oral hygiene behavior in Japanese university students: A prospective cohort study

掲載紙：PLOS ONE

著者：Daiki Fukuhara, Daisuke Ekuni, Kota Kataoka, Ayano Taniguchi-Tabata, Yoko Uchida-Fukuhara, Naoki Toyama, Toshiki Yoneda, Yoshio Sugiura, Md Monirul Islam, Hikari Saho, Yoshiaki Iwasaki, Manabu Morita

DOI：10.1371/journal.pone.0236259

URL：https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0236259

### ■研究資金

本研究は、運営費交付金を用いて実施しました。

#### <お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（歯）

教授 森田 学

（電話番号）086-235-6712

（FAX）086-235-6714



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。